

新会長挨拶と新役員紹介

吉田 孝人

組織適合性学会会長：浜松医科大，微生物学講座

新しい年がめぐって参りました。

会員の皆様にはご健勝にて色々な計画をお立てになり，胸をふくらませておられることと心からお慶び申し上げます。しかし，先の阪神大地震は私どもに強い衝撃を与えました。会員の方々の安否を気遣いながら心からお見舞申し上げます。

さて，昨年7月に浜松で開催されました第3回日本組織適合性学会に大勢ご参加，ご発表いただき，大会を盛り上げて下さいまして本当に有難うございました。心から感謝いたしております。

ご招待した Prof. D. Charron および Prof. J. Hansen は会員の皆様の熱心さと活気に満ちた様子に感銘しておられ，お二人とも熱のこもった特別講演をしてくださいました。Prof. Charron は一人でも多く 12th IHW&C に参加いただくことを期待すると申されました。Prof. Hansen はシアトルでの骨髄移植プロジェクトにおいて，米国の日系の患者には日本人の donor からというようなネットワークを作りたいと言っておられました。帰路，国立国際医療センターで講演なされ，日本の骨髄移植グループと密接な関係を結んで帰国されました。

皆様の推挙と承認により，次の理事および会長が第3回学会大会で決まり，学会としての活動が

ます軌道に乗りつつあります。例えば，臓器移植，骨髄移植に於ける HLA タイピングの標準化，会則に名誉会員の項をもうける，学会誌の発刊などです。

20年余の研究会(通算36回)，学会としての2年間のあゆみ，11回におよぶ日本 HLA ワークショップ，会員の国際ワークショップへの参加，及び第11回国際 HLA 会議 (11thIHW&C) 開催等の体験は日本における臓器移植のブロック化，HLA タイピングとそのネットワーク化，骨髄移植のための HLA の DNA タイピングなどに役立ってきています。今後とも全会員の協力により研究を基礎に社会に役立つことを推進して参るつもりでおります。宜しく願います。

新役員：会長 吉田孝人

理事 赤座達也 (事務局・経理)，猪子英俊 (編集)，柏木 登 (庶務・会則)，片桐 一 (選挙)，笹月健彦 (渉外)，十字猛夫 (事務局長)，辻 公美 (標準化)，内藤説也 (教育)

監事 関口 進，野本亀久雄

幹事 小河原悟 (総務・大会)，小出幸夫 (総務・大会) 徳永勝士 (編集)